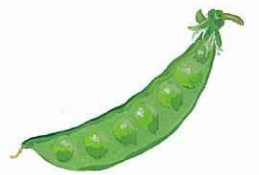
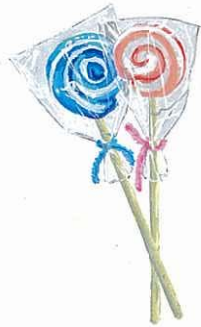


# M;REPORT

—レポート—

男女共同参画社会をめざす 2008.10.31 NO. 14



特集

「ワーク・ライフ・バランス」から  
「グッド・ライフ・バランス」へ  
——一人ひとりの幸せのために——



土堤内 昭雄さん

がらです。猫でも誰でも、手伝ってくれる人にはなんでも頼みました。  
 男手ひとつで育児と聞くと、たいていの人  
 は「たいへんですね」と言ってくれます。「そんなことないですよ」と強がらないで、「そうですね、たいへんですよ。手伝ってくれませんか」とお願いします。  
 妹にも助けってもらったけれど、その友だちにも助けしてもらったし、会社では同僚が出張の予定を私に合わせてくれたりしました。「困っている」と発信すれば、手をさしのべてくれる人は必ずいます。日本の社会も、まだまだ捨てたもんじゃありません。  
 子どもがある程度大きくなると、たとえ夏休みにプールに行くとき「友だちも誘ってごらん」と息子に言ったら「子どもの友だちも何人か一緒に連れていきます。すると夕方、親からお礼の電話がかかってくる。二人も三人も同じですから、いつでもまたごつぞ」と言っておく。すると数日して「動物園に行くんですが、息子さんたちも一緒にいかがですか？」

と電話がくるので「ありがとうございます、今すぐ行かせます」とお答えします。こうして、ぼくは子どもたちをプールへ連れて行くだけで、息子たちはプールにも動物園にも行くことができ、ぼくは有効に時間を使えるというわけです。  
 手伝ってくれる人は拒まず、自分が手伝えることは積極的に手伝う、そうすることで、自分も助けられるんですね。  
 とはいえ、職場では、最初からうまくいったわけではありません。  
 はじめは、「きょうの午後、保護者会なので休みます」と言つと「なんで？」と不審がられました。「親だからです」と答えて、そう言い続けていると、まわりも「そんなもんかな？」と、しだいに雰囲気が変わってきました。  
 制度がないとできないこともあるけれど、できることだとして発信しなさい、できないと思いきや、まわりが手伝うのが当然です。でも、そこで、まわりが手伝うのが当然小さい子どもがいるのだから優遇されて当然

り前と勘違いしてはだめですけどね。  
**子育ては「いいことばかりじゃない」**  
**本人にも企業にとってもプラス**  
 長男が中学2年生のとき、PTA会長をやることになったおかげで、地域に顔見知りが増えて、親にも子どもにも声をかけやすくなりました。デニマークに住んでいた友人を呼んで保護者向けに子育て講座を開いたり、パソコン入門講座をしたり、好評でしたよ。私も生徒向けに「男女混合名簿の謎」という授業をやるようになりました。トイレのマークが日本だと男は青、女は赤系統に色分けされていますが、海外のトイレにはそういう区別がないこと。英語でも、かつて議長は「チエアマン」と言っていたものを、最近では「チエアパーソン」や「チエア」と言い換えるようになってきたことなどを、お話ししています。  
 パソコン講座の際に、指導のサポートスタッフを募集したところ、4人の父親を含む十数人の親が手をあげてくれました。自分の子どもの教室で、子どもの友だちの親に教えるのは、おもしろい経験ですよ。平日に開催することになって、最初は無理だと言っていたお父さんが、結局は有給休暇までとって来てくれたり。自分の子どもに関心がない親はいないと思います。忙しいけれど、きつかけと、無理のない関わり方が分かれば、父親も学校やPTA活動に参加するんですね。

特集 SPECIAL

# 「ワーク・ライフ・バランス」から「グッド・ライフ・バランス」へ

一人ひとりの幸せのために



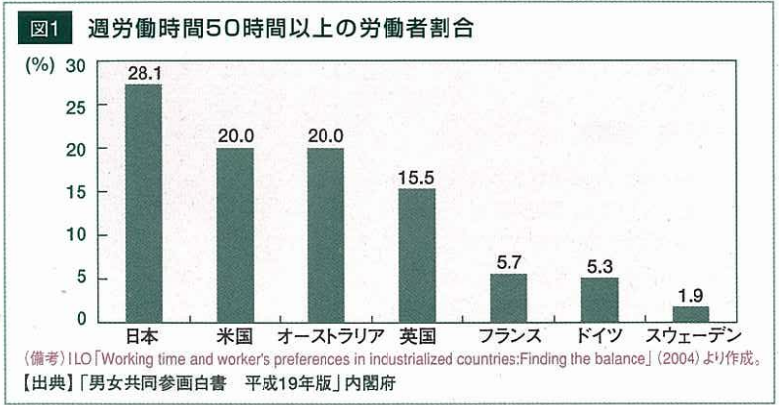
残業や休日出勤が多くて家族と過ごす時間がとれない、子育てや介護で疲れている、定年になったら何をしたいかわからない……など、私たちが感じている生活の悩みは、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」と深くかかっています。仕事もプライベートも、バランスよく、充実した生活を送るには、どうしたらよいのでしょうか。  
 今回は、少子化や高齢化について研究する傍ら、シングルファーザーとして息子さん二人を育ててきた土堤内昭雄さんと、北区で工業薬品製造業を営み、社員とともにアットホームな会社を育ててこられた小倉裕子さんに、ワーク・ライフ・バランスについて話を聞きました。

**男は働きすぎ、女はダブル役割**  
 新しい性別役割分業の問題

1990年代以降、生活の充足感や満足度が低くなり、逆に不安感が高まっているというさまざまな調査結果が報告されています。  
 不景気でモノが売れないなか、もつと売らなきゃ、コストを下げなきゃということで、企業はさらに経済効率を求めます。休日出勤や残業が増えて社員の労働時間はますます長くなっています。(図1)一方で、不安定な非正規雇用が増えて、社会はますます息苦しくなり、余裕がなくなっています。

ぼくが生まれ育った時代は、カラーテレビやクーラーなど、経済成長によって新しい「モノ」を手に入れることが、豊かさの象徴であり幸せでした。そうやって国内総生産額(GDP)は拡大してきたけれど、今は、国民の生活は

子どもがいる、いないに関わらず、もつと男の働き方を変えないと、一人ひとりが本当に幸せにはなれないのではないのでしょうか。  
**まわりが助けてくれた**  
**子育てから学んだこと**  
 私は1990年に離婚して、当時3歳と2歳だった2人の息子を育ててきました。もちろん、私の母や妹夫婦などの協力を得な



子育ては、会社にとってもマイナスじゃないと思います。毎日、ご飯を食べさせて、着替えさせて、寝かせてといったことをしながら、保護者会もあるし、急な病気や怪我にどう対応するか・育児には、高度なリスクマネジメント(危機管理)と、タイムマネジメント(時間管理)の力が必要です。

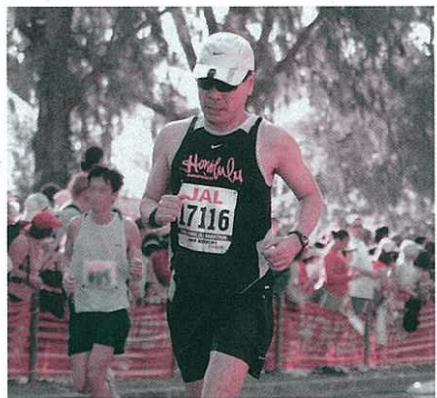
そのうえ、子どもの物の見方や感じ方に、ハッとさせられる場面もたくさんあり、感性が豊かになります。子育てや介助を体験すると、価値観も多様になります。これは、企業にとっても貴重なことです。これからの時代は、単一の価値観の人間を集めるより、「ダイバーシティ」といって人材の多様性を図り、様々な方向性や価値観を重視したほうが、企業の生産性の向上につながると思われます。

私自身、子どもの病気やPTA活動で休みをとることがあったとしても、それに勝るものを会社に還元することができたと自負しています。会社への引け目はありません。

ただ、指示されてやる子育てや「お手伝い」では、リスクマネジメントやタイムマネジメントの力には身につきません。その意味では、短期間でもいいから、男性も育児休暇をとって、自分が「主たる養育者」になってみることをお勧めします。

### 一人ひとりの幸せのために グッド・ライフ・バランスのすすめ

今、変えるべきは働き方ではないでしょう。働いて経済的価値を生み出すことを善とし、そのために効率を追求するというところだけで、幸せと感ぜられない時代です。たとえば、有給休暇をとって、子どもの学校のボランティアに行くことがおもしろいという新しい幸せの価値観が生まれ始めています。これまでの日本の少子化対策は、子育てが大変だから助けてあげようという発想だった



ランニングは大事な気分転換の時間。ホノルルマラソンにも毎年参加している。

と思います。そうではなくて、子育てって本当は楽しいんです。その喜びを実現するために支援しましょう、というふうになってほしいですね。

実は、いま言われている「ワーク・ライフ・バランス」には、私は少し違和感を持っています。企業に対しては、「経済的にこれだけ得ですよ」と宣伝するなど、国の少子化対策や企業のためというニュアンスが強く感じられるのですが、それだけではないでしょう。

本当の目的は、われわれ一人ひとりの幸せの実現です。

「仕事と生活の調和」だけを念頭に置いていると、定年退職後に、「仕事」のなくなった毎日をどのように楽しむのかという新たな課題に直面してしまいます。また、少子化対策として、子育てと職業の両立が大切だと言われていますが、子どもがいない人も、仕事だけではなく趣味やボランティアなど自己実現のための時間は重要です。

こう考えると、「仕事と生活」という分け方の「ワーク・ライフ・バランス」より、「一人ひとりのグッド・ライフ(いい人生)のためのバランス」が大切になってくるのではないかと私は考えています。名づけて「グッド・ライフ・バランス」です。

職業生活・家庭生活・地域生活などといった生活全体の調和によって、百人百様の暮らし方を築き上げる、その結果、一人ひとりが幸せになるのではないかと思います。

### 「ワーク・ライフ・バランス」とは?

2007年、有識者や関係団体代表等で構成する、仕事と生活の調和推進官民トップ会議は「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を策定。これによると、ワーク・ライフ・バランスが実現した社会は、<①就労による経済的自立が可能な社会②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会③多様な働き方・生き方が選択できる社会>とされる。国民が仕事だけでなく家庭や地域生活等においても、自らの望む生き方ができる社会を目指すことが、わが国にとって重要な課題であるとしている。

### 土堤内さんのモットー

- 1 子どもは育つ力をもっている。「子育て」をサポートすることが子育て。
- 2 育児をしながら親も成長する。水泳やバイオリンに挑戦するなど、子どものおかげで世界が広がった。育児は「育自」。
- 3 将来、親と子がたれかかるとはせず、自立した関係をつくっていく。子育ては「個育て」。



### 著書紹介

『父親が子育てに出会う時  
-「育児」と「育自」の楽しみ再発見』  
土堤内 昭雄著/2004

今回、お話をうかがった土堤内さんの著書です。子育ての中での新鮮な発見、関心の広がりなどが、日本社会の課題についても触れながら綴られています。マラソンや水泳、バイオリンなど子育てを通じて出会った趣味の逸話等、本文に掲載しきれなかったエピソードも満載。男女共同参画センター「スペースゆう」でご覧になれます。

### プロフィール

土堤内 昭雄(どてうち あきお)  
東京都生まれ。京都大学工学部建築系学科卒業。(株)竹中工務店勤務、マサチューセッツ工科大学留学を経て、(株)ニッセイ基礎研究所に入社。現在に至る。まちづくり、少子高齢化、ライフデザイン等に関する調査・研究及び講演・執筆活動を行う。千代田区男女平等推進区民会議委員。

大学の薬学部を出ましたが、薬剤師より研究の現場、化学が好きだったので、化学会社の研究所に勤めました。その後、百貨店の商品試験室で食品の分析や細菌検査をしていましたが、結婚を機に退職、専業主婦となりました。

私共の会社は、1951年に夫の父が興しました。化学薬品の製造と販売が主な業務です。その後、義父が亡くなり、24歳だった夫が跡を継ぎました。住まいと職場は隣あわせで、私は子どもが小さい頃は家事と育児に

専念し、子どもが小学校を卒業するところから、品質管理を担当するようになりました。1989年に夫が亡くなり、やむをえず私が経営を引き継ぐことになりました。従業員に恵まれたおかげで、今日まで続けてこられたと思っています。

今、社員は47人、女性は私をふくめて12人、パートは5人です。実は、昨日から勤続2年の事務職の女性社員が出産休暇に入ったところです。わが社では初めてのケースなので、お互いにいろいろ調べて、大変でした。10月の出

産予定日から逆算して産休開始日を決めて、復帰の時期をどうするかなど。今の時点では、赤ちゃんを預かってくれる保育園が見つかるか、わかりませんね。かわりのアルバイトを見つけるのも簡単ではありません。小さな会社で社員に産休をとらせるには、まだまだ課題があります。

彼女をふくめて、今年わが社では6人の赤ちゃんが生まれます。ほかは男性社員ですけれど、ベビーブームですよ(笑)。育児休業をとるうかと云っていた男性社員がいましたが、

経済的なこともあって申請はしてないですね。でも、妻のお産のときはみんな有給休暇をとって休んでいます。

創立50年の時には、社員の配偶者や子どもも集まって、みんなで会食しました。社員の子どもが受験の時はみんなでハラハラしたり、相談をもちかけあったり、家庭的ですね。2年に1回は社員旅行。今年は私の生まれた台湾にいきました。

## 北区の経営者に聞く

# 「わが社のワーク・ライフ・バランス」

## —家庭も仕事も大事に いい仕事はプライベートの充実から—

の女性は研究職で、子どもが高校生。中国人女性は、パートさんのまとめ役です。韓国人男性は、定時の5時15分に退社して保育園に子どもを迎えに行っているようです。家庭も会社も大事にしてほしい。プライベートでトラブルをかかえては、いい仕事はできませんから。

初の産休について、この秋、初めて社員の定年を迎えます。会社と本人の要望で、嘱託契約で続けてもらう予定です。やっぱり、経験がものをいいます。こちらのお得意さ

んにはこう、あちらにはこう、という感覚は、他の人がすぐ替わるものではありません。難しいなと思うのは、最近の若い人ですね。コミュニケーションを自分からとろうとしなくて、自分のやりたい仕事ができると勘違いしている。それができないと辞めてしまう。石の上にも三年、もう少し辛抱してほしいと思いますよ。

とはいえ、ベテランも若手もふくめ、色々な社員とどううまくやっていくかが、企業の知

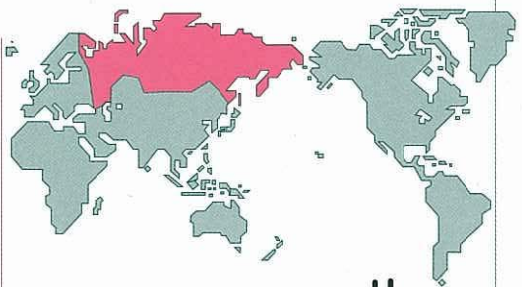
恵でもあります。私も、ここで仕事だけをしていては井の中の蛙ですから、法人会など他の企業の方との交流を大事にしています。刺激になりますね。仕事を離れた人間関係は息ぬきにもなります。

将来のビジョンですか?化学というジャンルで社会に貢献したいですね。いまは、関連企業と協力して、反射板を使ったエコライトの営業展開を図っています。



株式会社十條合成化学研究所  
代表取締役社長 小倉玲子さん

株式会社十條合成化学研究所(滝野川3丁目)  
設立 1951年3月13日  
社員数 47名(男性35名/女性12名)  
平均年齢 42歳  
工業薬品製造販売業  
http://www.jujo.co.jp/



# 北區で暮らす世界の女性たち

No.3

## ラバゾワ・イネツサさん

暮らしやすい日本で、花にかかわる仕事を



### 結婚決めた、3ヶ月のお試し 来日

ラバゾワ・イネツサさんはロシアから来日して16年、夫、2人のお子さんとともに堀船で暮らしています。

来日のきっかけは、日本人の夫との結婚でした。出会いはラバゾワさんが23歳のとき、内科医師を目指してウラジオストク医科大学に学んでいる時期でした。極東国立大学に留学していた夫と出会い、交流するうちに、日本に対する関心を持ち始めました。

医師の養成課程を一通り修了した頃、実務研修に入る前のまとまった休暇を利用して、初めて日本を訪れました。このとき、夫と夫の母が住む家に、3ヶ月間滞在したそうです。まだ結婚を考えていたわけでもなく、軽い気持ちで遊びに行く感覚だったということですが、このときの日本での暮らしが思いのほか快適で、その後の国際結婚、医師への道を変更して日本に移住する、という

選択につながりました。

### 慣れない生活支えた義母と 日本語教室

来日して最初の2年間は、遊びに来たときのように、夫と、看護師として働いていた義母とともに暮らしたそうです。

「ロシアでは、夫の両親との同居はめずらしくありません。私も、祖父母と同じ家で育ちました。同居に先立って3ヶ月間一緒に暮らしたおかげで打ち解けていましたし、抵抗はありませんでした。ほとんど日本語が



休日には家族でサイクリングを楽しむ

「男性の再婚は多いが、女性の再婚はあまり見かけないように思う」というラバゾワさんに、その理由を質問したところ「戦争によって男性が減り、女性のほうが数が多いのではないか」という答えが返ってきました。ソ連時代から、ロシアでは男性に兵役があり、様々な紛争による影響などがあるのではないかということでした。

### 夢はフラワーコーディネーター

現在、幼稚園と小学校に通う2人の男子を育てるラバゾワさん。子どもたちは、うどんやそうめんなど、日本料理に幼い頃から慣れ親しんでいます。ロシアでは蕎麦やうどんのような麺類はカフカス地方など南方以外では食べないということで、ラバゾワさん自身は、日本に来て初めてこれらのものを食べたこと。ロシアの日常的な食事は、パンやじゃがいもを主食とし、スープ類を添えるものが多いそうです。

「夏には、黒パンを発酵させて作る、クワス」という麦茶のような色をした飲み物がよく飲まれます。それぞれの家庭の味が表れる庶民的な飲み物で、子どもにも好まれます。それから、きのこもロシアではよく食べます。日本のマツタケよりも味の濃い「ピエールイ・グリブ（白いきのこ）」が好まれます」とラバゾワさんは語ります。

ソ連解体の1991年前後は、経済が混乱し、物資も欠乏して、店の棚から商品が

ロシア	
面積	約1,707万平方キロメートル(日本の45倍)
人口	1億4,190万人(2008年6月現在)
首都	モスクワ
公用語	ロシア語
宗教	ロシア正教が優勢だが、イスラム教、仏教、ユダヤ教等多数の宗教がある。
主要産業	鉱業(石油、天然ガス、石炭、鉄鉱石、金、ダイヤモンド等)、鉄鋼業、機械工業、化学工業、繊維工業。日本はドイツ、オランダ、中国等とともに主要な貿易相手国のひとつ(2007年現在)

(参考 外務省HP <http://www.mofa.go.jp/molaj/area/russia/data.html>)

消えたそうです。石鹸など日用品の配給があったものの、ほんの少量で困ったといいます。それでも飢えずにすんだのは、自宅のほかに郊外に自給用の菜園を持っていたからだそうです。ラバゾワさんの育った地域には、こうした伝統的な工夫が今でも続いているということでした。

植物が好きだというラバゾワさんは、現在、子どもが幼稚園に行っている午前中に、花屋でアルバイトをしています。今後の夢をたずねると、今の経験を活かし、いずれフラワーコーディネーターの勉強もしてみたいと笑顔で語ってくれました。

できないまま移住した私に、義母は買い物からお金の出し入れ、日本料理など、たくさんのお金を教えてくれ、とても助かりました」

義母とより多くの話をするために、少しずつ日本語の勉強も始めました。区が主催する日本語学習の教室に3ヶ月間通い、修了後は、区民のボランティアが運営する「日本語サロン」に参加するようになりました。

ここでは、参加者が母国の料理を紹介しあい、皆で調理や試食をしながら会話を覚えるなど、楽しく学べる仕組みがたくさんあったそうです。ラバゾワさんも、ここでロシア出身の友人と出会えたということで、思い出深い場であったようです。

### はつきり自己主張、 ロシアの女性

日本とロシアで違いを感じることはあるかと思えば、次のように語ってくれました

「日本の女性に比べて、ロシアの女性は自分の意見をはつきり主張します。離婚も多いのですが、少しは関係しているかもしれませんね」

ロシアでは、社会主義国家だった旧ソビエト連邦(以下ソ連)時代から、女性が結婚や出産後も仕事を続けることは一般的だったということでした。

「保育所は朝8時から夜8時まで子どもを預かってくれ、希望すれば宿泊させることもできます。小学校に上がってからの学童保育も、夜7時まで受け入れてくれます」

子どもを育てながら働く人への支援は、日本より充実しているかもしれないとのことでした。結婚や出産を経ても、仕事と子育てを両立することへの社会の意識、社会環境の整備があり、自己主張をする国民性があることで、女性が離婚に対しても躊躇せず、自分の意志を大切にすることも可能かもしれません。

平成20年  
8月5日(火)  
～9日(土)

## 北区平和祈念週間が実施されました

北区では、昭和61年の「平和都市宣言」制定を記念し、毎年、平和祈念週間を設けています。今年も8月5日から9日にかけて、平和都市宣言の周知と平和への理解を深めるさまざまな催しが実施されました。

男女共同参画センター・スペースゆうも、この期間中、平和に関する展示を行いました。暴力や差別がなく、多くの人が楽しく暮らせる平和な世界をつくるには、性別による差別をなくし、男女がさまざまな場面で協力し



平和への思いが記された星々(北とびあ展示ホール)

### ◎ 平和都市宣言 ◎

真の平和と安全を実現することは、私たちの願いであるとともに、人類共通の悲願であります。私たちは、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念に基づき、平和で自由な共同社会の実現に向けて努力しています。

人間のぬくもりを感じるふるさと、美しい自然をこれから生れ育つ子ども達に伝えることは、私たちに課せられた大きな責務であります。

私たちは、わが国が非核三原則を堅持することを求めるとともに、心から世界の恒久平和と永遠の繁栄を願いつつ、ここに北区が平和都市であることを宣言します。

昭和61年3月15日 東京都北区

合う男女共同参画社会の実現が不可欠であることを、男女共同参画条例のパネルを通じて訴えました。ほかにも、スペースゆう来館者が寄せた平和についてのメッセージなども貼り出し、来場者の注目を集めました。

情報コーナー

秋以降も、スペースゆうでは  
楽しい講座が目白押しです!

男女共同参画センター「スペースゆう」では、性別にとらわれない自分らしい生き方を応援するさまざまな事業を行っています。ぜひご参加ください。

〈開催予定行事一覧〉 ※I~IVは申込先着順

	日時	行事名	内容	講師	対象・定員・費用	申込方法
I	11月8日(土) 午後3時~5時 11月20日、12月4日、 11日(木) 午後6時30分~8時30分	参画のスキルワーク ショップ「私たちがつ くりたい未来」	社会の主な分野を、男女共同参画 の視点から学びなおす連続講座です ・自分で守ろう!自分のカラダ ・「わたくし」と「わたくしの生活」を 学ぶ学校へ…ほか2回	・吉野一枝氏 (よしの女性診療所医師) ・鶴田敦子氏 (聖心女子大学教員) ほか	・誰でも参加可能 ・各40名 ・無料	電話・FAX・Eメールで、参加希望講 座名・氏名・住所・電話番号を連絡  ※保育希望者は、講座1週間前ま でに子どもの氏名・年齢も連絡 (1歳~就学前対象) Ⅲ、Ⅳは11月14日(金)締切  TEL 03 (3913) 0161 FAX 03 (3913) 0081 E-mail: danjo-c@city.kita.lg.jp
II	11月19日、26日(水) 午後2時~4時	あらゆる暴力の根絶 を目指して一身近に あるDVから学ぶ	暴力で支配しない、されない人間 関係をつくるため、DVの現状から 私たちにできることを探ります	・山崎礼子氏 (スペースゆう専門相談員) ・丸山聖子氏 (元PTCシェルタースタッフ)	・誰でも参加可能 ・各50名 ・無料	
III	11月21日(金) 午後6時30分~8時30分 12月5日(金) 午後2時30分~4時30分	語りから学ぶ男女の 関係	男女共同参画という言葉がない頃、 男女はどんな方法で互いの思いや 生き方を理解しあったのでしょうか。 昔話を題材に今を生きる私たちの あり方を探ります	・大島広志氏 (国学院大学講師) ・寺内重夫氏 (「ことばとわたしの部屋」 主宰)	・誰でも参加可能 ・各20名 ・各回500円 (資料代)	
IV	11月27日(木) 午前10時30分 ~12時30分 午後6時30分~8時30分 ※各回、同一内容	ここにキク! わたし の香り	仕事や家事、子育て等に忙しく生 きる女性は知らぬ間に疲れを溜め がちです。自分だけのオリジナルア ロマオイル作りとハンドマッサージ でリフレッシュしませんか	・堀口美智子氏 ( (社)日本アロマ環境協 会認定アロマセラピーイ ンストラクター)	・アロマセラピー 未経験の女性 ・各24名 ・各回500円 (材料費)	
V	11月12日(水)~23日(日・祝)	ギャラリー遊 ※絵画、写真等個人や 団体の作品を、随時展 示しています	2008女性に対する暴力をなくす運動	申込不要。左記期間中は、開館時にいつでも鑑賞できます。	開館時間 火~土 午前9時~午後9時 日 午前9時~午後5時  ※ギャラリー入場は、なるべく閉館30分前までをお願いします	
	11月27日(木)~12月7日(日)		墨の友王子教室 南画展			
	12月11日(木)~26日(金)		朝日が昇る5秒前!-新聞奨学生写真展-			

スペースゆうの  
お薦め図書

スペースゆうの情報コーナーでは、男女共同参画や自分らしい生き方に関する資料を揃えています。ぜひお立ち寄りください。

「デートDV 愛か暴力か、見抜く力があなたを救う」  
遠藤智子著/2007

携帯電話の着信履歴やメールを盗み見る、他の異性との会話を禁止するなど、相手を必要以上に束縛するのがデートDVの典型例です。本書は身体的暴力だけでなく、精神的暴力もDVであること、愛情と暴力は紙一重であることを伝えます。他国の性暴力防止制度や対策例のほか、相談窓口一覧も掲載されています。



「記憶のキャッチボール 子育て・介助・仕事をめぐって」  
青海恵子・大橋由香子/2008

フリーで編集者やライターとして働く女性と、車椅子で生活しながら翻訳の仕事をごこなす女性との往復書簡。子育てをきっかけに、人から助けをもらうこと=介助について思いを馳せ、子育てが「私的な」ものであるかを議論する。読む人に発見を与えてくれる一冊です。



表紙・紹介 GALLERY

作 / 伊藤彩  
作品 / 「季節のイラスト」

高齢者施設の飾りとして、毎月数点のペースで制作されたポストカードサイズの作品。アクリル絵具で四季折々のささやかな自然の表情、伝統行事の小物などを描いたもので、今夏、スペースゆうの展示施設「ギャラリー遊」を飾りました。



**男女共同参画センター「スペースゆう」へ来てみませんか?**

所在地 〒114-8503 北区王子1-11-1 北とびあ5・6階

TEL 03-3913-0161  
FAX 03-3913-0081

男女共同参画センター 北とびあ6階  
スターロードから  
お入りください。

今回の「ゆうレポート」では、ワーク・ライフ・バランスについて特集しました。少子高齢化やこれによる労働力不足への懸念などがきっかけとなり、日本でも働き方の見直しという視点が生まれつつあります。そんな中、男性の育児休業取得を促進する方策も検討されています。北欧では父親に長期の育児休暇を割り当てる制度があるようですが、日本では長期休暇の導入より、休みやすい環境づくりや、日々の残業時間を減らすことが優先課題かもしれません。どんな立場の人であっても、休暇がとりやすく働きたい社会をつくっていきましょう。

編集後記